

意見交換

平成 31 年 2 月 27 日

第7回石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ
(略称:幌向再生ワークショップ)

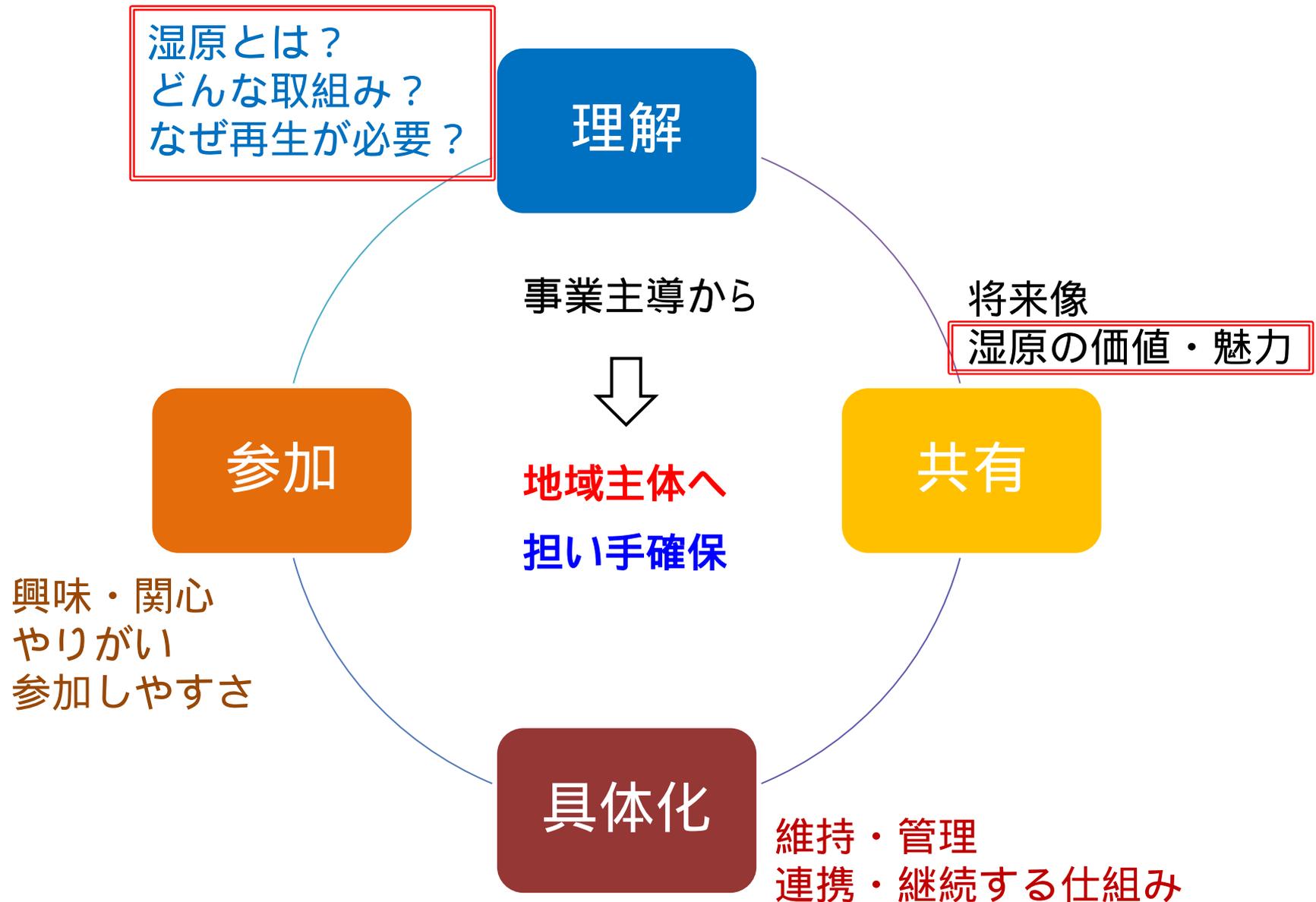
意見交換のテーマ

地域主体による持続的な取り組みの継続に向けて

目的 (自然再生計画書)	実現したいこと	課題	進め方
【1】湿原環境の形成 ほろむい七草をはじめとする湿生植物を育むポッグを中心とした湿原環境を形成する。	湿生植物の繁茂・保全 ミズゴケの繁茂・保全 外来草本の駆除	物理環境の形成	湿原再生MTの議論を基に遮水整備、 現地調査を実施
		導入方法に関する知見蓄積	専門家による試験実施
		重点区域の植生導入	導入計画の立案、種苗採取、育苗管理
		○一般区域の植生導入	○植栽イベント ○種苗育成
【2】地域社会の学びの場の形成 自然を育む場を形成し、人が自然と歴史を学ぶ。	環境教育・体験学習等への活用	継続的な維持管理	○施設補修 イベント的な管理の実施
		学習メニューの作成	○パンフレットの作成 学習メニュー、教材の作成
		ふれあいの機会の増大	教育関係者等へのPR ○現地イベントの実施
【3】自然と共生する地域社会の形成 自然の価値をふるさとの資源として供給・活用する。	地域主体による持続的な取り組みの継続	○自然再生の価値の共有	イベント、フォーラム等の実施 インターネットによる情報発信 ○体験イベントの実施
		湿原再生後の将来イメージ共有	イメージパース 湿原観察会(美唄湿原?)
		○地域経済への貢献	○インフラツアー ○ワイズユースによる商品開発
		参加者の増大	イベント開催 サポーター制度の導入

本日の意見交換テーマ

自然再生の価値とは？



理解と共有（どのように伝えれば？）

湿原とは、どんなものか？

「コケ」は何処にでも生えるのでは？
湿原は見たこと、触れたことも無い、
イメージがわからない。

湿原の価値や魅力は？

ジメジメとした地味な野原？
「特別な何か」がある？
「希少」と言うが、なぜ？

なぜ、湿原を保全・再生？

再生（再構築）できると良いことがある？
自然に任せれば、元に戻るのでは？
特殊な植物が好きな人だけの運動では？



湿原の標本(イベント展示)



ミズゴケ(イベント展示)



湿生植物の移植(イベント)



泥炭の説明(イベント展示)



泥炭上の歩行体験
(イベント)

高層湿原とは？

(1) 特殊な条件でなければ形成されない

- I 極めて特殊な環境が揃って安定し続けることでボグ(高層湿原)が形成されていきます。

水分が多い(過湿)

貧栄養(供給される水分、土壌)

酸性(供給される水分、土壌)

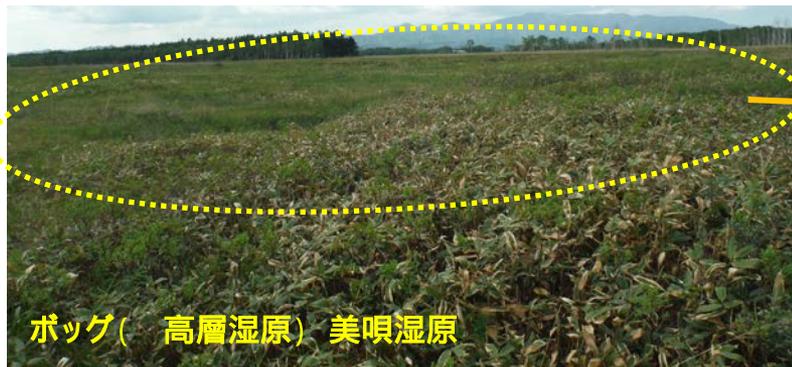
他の植物には不利な条件下で適応した湿生植物が生育し、少しずつ変化していきます。

降雨が無い状態が続いても水分を保つこと、水没し続けられないことが必要です。

濁流などによって栄養の多い土壌が運ばれたりすると大型の植物が生育しやすくなります。

中性に傾くと、ヤナギなど多くの湿生以外の植物が生育しやすくなります。

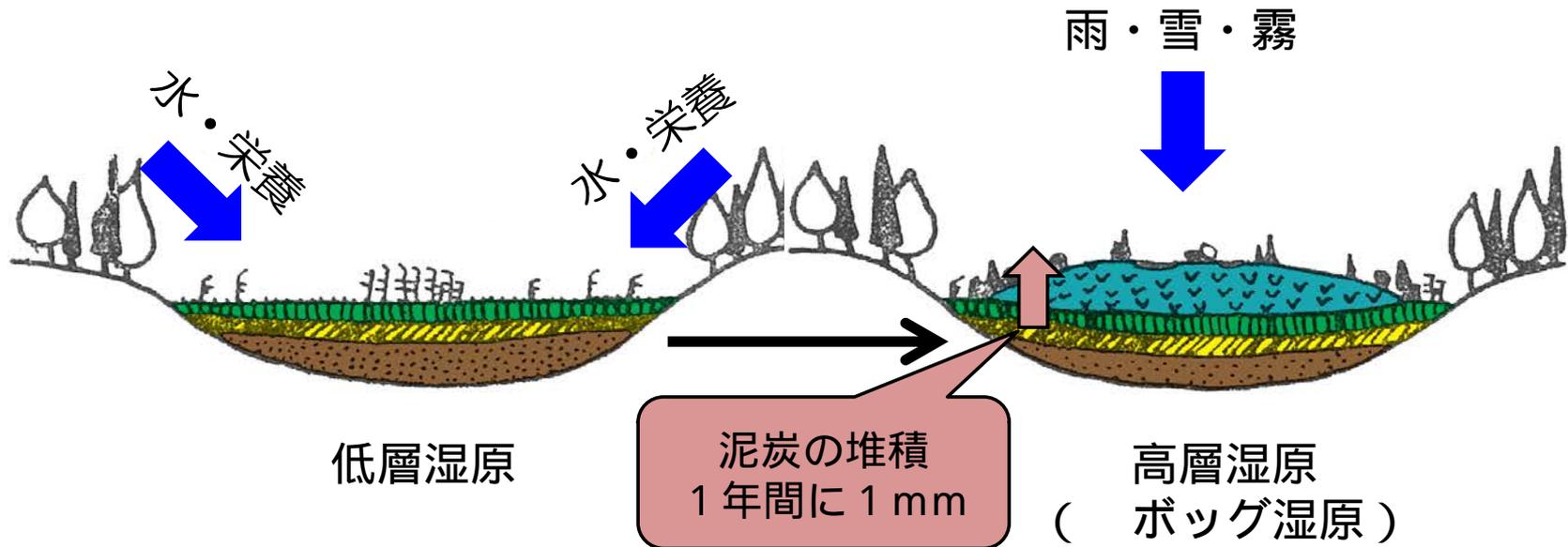
ボグ湿原の環境条件が整うほど、貧栄養になるため徐々に笹なども少なくなり、全体的に草丈も低くなっている



高層湿原とは？

(2) 湿原の形成には長い時間が必要

- 泥炭は1年間でわずか1mmしか堆積しないとも言われています。
- 何千年もかけて形成された**湿原は長い時間と歴史の積み重ねそのものです。** (大昔から分解されずに泥炭の中に残った植物断片や種、花粉から、当時の生態や気候が分かることもあるそうです)
- ボッグ(高層湿原)は限られた場所でしか見ることは出来ません。
- 日本では、大半が冷涼な北海道に位置しています。
(温暖な気候では植物遺骸の分解消失が速く、堆積しにくいからです)

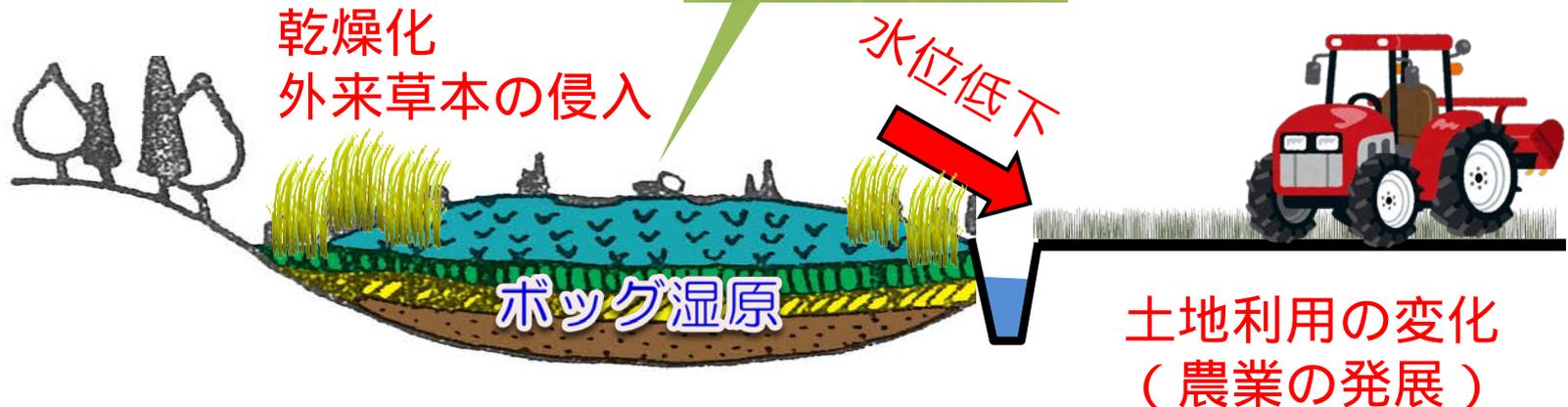


高層湿原とは？

(3) 形成できても姿を保つことが難しい

- 1 多くの場合、草本の繁茂などにより、沼地から草地、さらに林などへ変化していきます。
- 1 必要な環境のバランスがわずかでも崩れると湿原は短時間で乾燥化等により、草地などへ変化します。
- 1 崩れやすい特殊な環境を長い間、保ち続けて、姿を変えずに**ボグ(高層湿原)のまま存在し続けることは「自然の奇跡」**と言えます。

(形成されにくく、失いやすい環境であり、
現在では、ごく一部の地域にしか存在していません)



幌向再生の価値

(1) 学術的価値の高い植物を育むボッグ湿原

- 1 極めて壊れやすいバランスに成り立つボッグ湿原には、近い将来野生での絶滅が危ぶまれる種も多く生育します。
- 1 ボッグ湿原は、華やかではありませんが、ほかでは見ることのできない学術的にも貴重な自然環境です。



ツルコケモモ



ゼンテイカ



ヤチヤナギ



タテヤマリンドウ



トキシウ



ホロムイリンドウ



ワタスゲ



コバギボウシ

(2) 観光資源としての可能性

- 1 湿地の植物が開花する時期は、多くの観光客が訪れ、木道を歩きながらその景色を楽しんでいます。
- 1 雨竜沼湿原(雨竜町)、神仙沼湿原(共和町)、キウシト湿原(登別市)などには、湿原を彩る花々などを目的に多くの見物客が訪れています。



幌向再生の価値

1 北海道開発局が実施したインフラ歴史ツアーには、多くの申し込みがあり、ミニ湿原(現物見本)や泥炭地のフワフワ歩行体験が好評を得た。



2018年7月▶9月

北海道中央バスグループ 電話 コイヒーツアーズ 協力:北海道インフラPR実行委員会 YOBO721 バスガイド無

北海道命名150年記念インフラ歴史ツアー第二弾!

国家的一大プロジェクト「篠津泥炭地開発」と石狩川治水の歴史

出発日 7/28(土)・8/18(土)
9/1(土) 各出発日20名限定!
 旅行代金お1人様(大人・子供同額)
5,580円

当ツアーは、「北海道インフラPR実行委員会」よりツアー代金の一部を助成いただいております。
 ■募集人員/20名 ■最少催行人員/10名 ■添乗員/同行
 ■食事/昼食1回 ■利用バス会社/北海道中央バス又は同等
 ■集合場所/中央バス札幌ターミナル
 (札幌市中央区大通東1丁目/北海道四季劇場横)

ツアーテーマ

実際に現地を巡りながら、泥炭地の開発や石狩川の治水事業の歴史に触れ、安心して生活し、農業ができるようになり、美味しいお米や野菜が穫れる肥沃な農業地帯となった地域の成り立ちを学ぶことで、インフラ整備の効果を実感できるツアーです。

★現在、日本有数の穀倉地帯となっている篠津地域は、かつては農耕が困難な軟弱で水はけの悪い泥炭地でありました。また、その地域を流れる石狩川が、度々氾濫し水害を引き起こしました。

★明治期からの治水対策により、石狩川流域の水害被害の軽減が図られ、水位低下により土地の排水を促進し、さらに世界銀行の融資を受けて行われた国家的プロジェクト「篠津泥炭地開発」による排水・灌漑施設等の整備により、農地の基盤が築かれました。

篠津泥炭地資料館
篠津泥炭地開拓の歴史をたどる。70年間の歴史を伝える資料館。資料館には、開拓当時の生活の様子や、開拓者の苦労の歴史が展示されています。

月形神戸博物館
1904年、月形に、全国で3番目に古い歴史を誇る明治の建造物「月形本館」が建てられました。この本館は、開拓時代の歴史を伝える貴重な資料として活用されています。

地元のお米と野菜のご昼食!

北の大地マルシェ

若見沢市北村にある農産物直売所。地元で採れた野菜や地元農産物を使った加工品を販売しています。今回のツアーでは、地元で採れた野菜やお米を使った昼食を提供していただきます。

石狩川頭首工
石狩川(約100km)から5km程度に位置する長さ207m、幅員約100mの巨大な治水施設です。2018年11月より開工による取水が行われています。

篠津運河
石狩川(約100km)から5km程度に位置する長さ21.1kmの運河です。2018年11月より開工による取水が行われています。開通後は、開拓当時の治水施設として活用されています。

篠津泥炭地開発(篠津運河)当時の風景

運河掘削機

運河掘削船

石狩川頭首工

篠津運河

ツアーご参加の際は、アンケートへご記入をお願いしております。当ツアーは、こちらのパンフレットが最終日程表となります。

※写真は全てイメージです

<http://www.cb-tours.com>